

設計演習ⅢA

都賀川沿いに建つ<く子育てスクエア>

10

開講年次：学部3年生第1クオーター

[担当教員]

橋橋修（准教授）小林直紀（安井建築設計事務所）鄭弼溶（アクセス都市設計）

[Teaching Assistant]

奥村紗帆（A70）赤川舞花（A70）山根駿二（A70）

■課題概要

現代都市に暮らす人々にとって、子供を産み育てることには様々な課題がある。要因としては核家族化による地縁の希薄化、女性の社会進出による共働き夫婦の増加、単親世帯の増加などが挙げられる。子育ての負担が親に集中することが、都市でのライフスタイルとの間でストレスを生み、育児ノイローゼや幼児虐待といった招かれる事態の遠因ともなっている。

従来より社会における「発達保障」の場として児童福祉施設は整備されてきているが、現代のような家族観、自然観が多様化する時代において、都市は子供達に、また子供を育てる親たちに、どのような場所を提供すればよいだろうか。本課題では以下に挙げる3つの方向性からひとつを選択し、子供のための空間、都市における福祉のあり方について考えてもらいたい。

- (1) 次世代をになう児童達が、健やかに育つための支援環境として、自由に利用ができる施設。
- (2) 子育てに関わる様々な人が自由に集まり、交流するための施設。
- (3) 乳幼児の発達保障の場、生活空間を提供する施設。

3つの施設が、交差点を中心に子育てスクエアとして一体的な空間をつくるように、それぞれが尊重すべき共通のデザインの方針（デザインコード）を設定することが望ましい。

■敷地

(1) 下図に示すような、灘区都賀川沿いの敷地を想定する。

- ・「児童館」敷地①約 2030 m²=東西 30m × 南北 70m(変形あり)
- ・「子育てカフェ」敷地②約 1550 m²=東西 62m × 南北 25m
- ・「保育所」敷地③約 3100 m²=東西 62m × 南北 50m
- ・用途地域等(近隣商業地域 / 建蔽率 80%, 容積率 400%, 防火地域)

(2) 河川公園に隣接する敷地で、周辺は住宅地。

■建物概要

- ・「児童館」：延床面積 1000 m²前後。構造、階数は自由とする。
- ・「子育てカフェ」：延床面積 800 m²前後。構造、階数は自由とする。
- ・「保育所」：延床面積 1000 m²前後。RC 造、鉄骨造、または、木造（準耐火建築物）。階数は自由とする。



国土地理院 地理院地図 (<https://maps.gsi.go.jp/>) をもとに編集者作成

課題敷地

六甲にぎわい子育て施設ー出逢いの山あいー

長谷川晶穂

多くの地域の人が訪れ出逢い、みんなで見守り育てる児童館。人々が訪れたくなるよう、各々の古本を持ち寄る「みんなの本棚」や「駄菓子屋」、「子ども用品のフリーマーケット」などのコンテンツを備えている。六甲山をイメージした屋根と地盤を用い六甲の自然と調和する建築を目指す。

花とともに花みたいに

山口沙礼

「芽が出る咲く実る」というデザインコードの保育園。植物が芽を出し花を咲かすために欠かせない水、土、光、空気を、成長する子供たちにも必要な条件と捉え、ETFE の活用等を通じてそれらを保育園の空間に活かした。花びらの形をした分棟をテラスで繋ぎ花が咲き誇るような形態とした。



巣立つ前に見た景色は

柳内あみ

自身の幼少期の記憶は当時の何気ない景色と関連して覚えているものが多いと感じる。その経験をもとに、大人になった時に景色に紐づいた記憶がたくさん残っている様な児童館を提案する。六角形を連続させることで多くの面を作り出す。それによって視線が折れ曲がり、唯一無二の景色を切り取る。



川と遊ぶ園

千馬生吹

都賀川を対照の軸として敷地西側を児童館と、東側を児童館の遊び場兼公園とし、六甲山までの景色のランドスケープをデザインした。建物と公園を三つに分解・ずらし、幹線道路から人を呼び込む。遊び場は児童館の子供たちや周辺の住民など様々な人々が集まる広場となる。



明日にカケル橋

田中琴絵

育児の孤立化が問題となる現代に、かつての「おばあちゃん家」のようにゆるやかなコミュニティの場としての子育てカフェを設計する。なだらかな大屋根の下、都賀川のほとりへ接続するデッキに全ての部屋が面するように吹抜けをもうけ、施設内の繋がり・一体性を図った。

